

問：最近「放射」という言葉は放射能のときにだけ使い、放射霧については以前使われていた輻射霧を使うようになったとか、気象監視は、気象看視または観視が正しいとかいうことを聞きましたが本当でしょうか。最近、気象用語の変更があるようでしたら教えてください、

(釧路地方気象台 一会員)

○ 放射霧の用語について

昭和21年11月、当用漢字表(1800字)が決まり、この中から輻射の輻は除かれた。その後、昭和33年ころから、中学、高校の物理教科書の中では輻射を放射に改めて現在にいたっている。

気象庁においても、この時点で輻射霧などは放射霧に統一した。観測部測候課の組織で輻射係があるのは、放射能係とまちがいやすい為にはやむを得ずつかっている。

なお、気象用語全般についての最近の情報を知らせておこう。日本気象学会が文部省学術用語分科会の委嘱をうけて気象用語の検討をしてその最終案をまとめ近く文部省へ提出する運びになっている。文部省でこの案の調査が終れば、気象用語集として刊行(東京堂)されることになっている。この用語集においては輻射は用いず、すべて放射に統一されている。

さらに参考までに付記すると文部省学術審議会に学術

用語分科会があり、ここで学術用語が検討されている。一方、文化庁に国語審議会有る。同審議会の最近の総会において次のような意見が出されている。

「専門用語については、各専門分野にまかせたらどうか、しかし当用漢字表の趣旨を尊重すべきである」

しかし、この意見についての結論が出るまでには、さらに各分科会の審議をえなければならぬので、相当の期間を要するようである。

また、文部省情報図書館課の調査官の言によれば、中学、高校の教科書に、いったん決められた放射の用語を輻射に改めることは、まず考えられないことである。

○ 気象監視の用語について

気象庁がだしている「今日の気象業務」'73版の第一頁に“世界気象監視(WWW: World Weather Watch)計画の推進”気象庁ニュース(No. 571, 昭48. 12.5)に“予報精度向上と異常天候監視のために”またAMeDASの設計書にも気象監視の用語が使われており、気象監視の用語は気象庁において定着している。部外においても大気汚染監視測定網のように監視が広く使われているので、看視、観視は一般性をもたない造語というべきだろう。(気象庁測候課三谷一郎)